

ゆたあ〜と



『小児外科』

『つてーご存じですか？』

皆さまこんにちは！小国公立病院総合診療科の寺倉です。



とともに、昨年11月から小国公立病院で働いております。

小児外科とは、どんなことをするのかとよく言われます。

私が研修医のころは小児外科医は少なく、田舎の両親は私のことを小児科医だと思っていました。小児外科は小児科から派生したのではなく、外科から派生しました。私も坂本前院長先生と同じ熊本大学病院第2外科に入局して研修を始めました。

小児外科医は子供を専門的に手術する外科医です。それでは子供のどんな手術をするのでしょうか。

脳、心臓以外の子供の手術をします。小児外科医が手術する中で一番多いのは、外鼠経ヘルニア(脱腸)です。腸が出て足の付け根がふくれる病気で、男児女児ともに起こり50から100人に1人の割合で出現します。私も熊本赤十字病院にいたころは年間に150人前後の子供たちの外鼠経ヘルニアの手術をしていました。

手術を受ける年齢は生まれてすぐから中学生までです。



生まれてすぐの赤ちゃんでは、腸がつながってなくて、母乳やミルクが飲めないのが、閉塞した腸を切ってつなぎなおしたり、人工肛門を作ったりします。

腸の手術もたくさんあります。生まれつき肛門近くの大腸に神経細胞がなくて、ひどい便秘になるヒルシユスブルング病という病気があります。検査にてヒルシユスブルング病と診断したら手術をします。便秘のひどい子供にはこの病気が潜んでいることがあり、便秘の子供をたくさん診てきました。

ヒルシユスブルング病と診断したら、手術が必要ですが、多くの子供たちはいわゆる慢性便秘症です。慢性便秘症はお薬や浣腸にて治していきます。

便秘の症状は腹痛だけではなく、吐いたり、微熱が続いたり、頭の痛みを訴えるなどいろいろな症状が出現します。便秘は不快なものであり、本来は活発な子がおとなしい引つ込み思案になっていたりもありません。また便秘がひどくなると、あふれだした便が漏れるため、パンツによくうんちがついていたり、小学生になってもオムツをはめている子もいました。



便秘症は「たかが便秘、されど便秘」で、早めに治療してあげることが大切です。大人と違って子供たちは排便のしかたを知らないのです、小さい時から排便回数が少ない子は、ますます出せなくなり、週に3回より少ない排便(週に2回以下の排便)、あるいは5日以上出ない日が続くと、便秘と判断して病院で診てもらおう必要があります。

こどもたちは毎日バナナうんちが出るのが普通と思ってください。便秘かと思ったら気軽に相談してください。

(小国公立病院 総合診療科 寺倉 宏嗣)

発行
小国公立病院
0967-46-3111
おぐに老人保健施設
0967-46-6111
訪問看護ステーション
0967-46-6050

46号
令和3年7月

小国公立病院
HPアドレス
<http://www.ogunihp.or.jp/bind/>

小国郷糖尿病対策チームブルーの活動が糖尿病情報誌で紹介されました

臨床検査技師 有住将尚(チームブルーリーダー)

小国郷糖尿病対策チームブルーとは、小国町、南小国町(小国郷)医療機関スタッフと、小国郷の行政スタッフの有志でチームを組み、糖尿病に対するさまざまな活動を行っているチームです。この度、ニプロ株式会社様が、発行している糖尿病情報誌『BLAUW(ブラウ)』に、小国郷糖尿病対策チームブルーが紹介されましたのでその内容についてお伝え出来ればと思います。

それぞれの職種を活かしています。また、「DM熊友パス」といったツールを用いて、糖尿病患者様へのアプローチを図る事で、糖尿病の指標であるHbA1cの値が有意に改善させることができました。このことは学会でも報告しました。

おそらく、住民の皆様にも「ふくし夏祭り」での無料血糖測定会や、ケーブルTVでの啓発番組などご覧になった方もいらっしゃるかと思いますが、このような活動も紹介されました。

ちなみにこのチームのリーダーは、臨床検査技師である有住が担当しておりますが、チーム内の調整役となり、メンバーの職種ごとの役割はもちろんですが、それ以外での得意分野を発揮することで、専門医とは違ったチーム独自の視点でのアプローチができています。その他にも、熊本県糖尿病予防キャッチコピー優秀賞・世界糖尿病デーのウォーキングイベントについてなどを取り上げていただきました。

私共の活動が紹介されたことは非常に光栄です。今後も積極的に活動が継続出来ればと考えておりますので、小国郷糖尿病対策チームブルーをどうぞよろしくお願いいたします。



～糖尿病情報誌『BLAUW(ブラウ)』～

まず、このチームが結成された経緯ですが、小国郷では糖尿病の治療中断率が高いという問題について、小国公立病院の熊本地域糖尿病療養指導士有資格者と行政が連携を図ることから始まりました。現在、この熊本地域糖尿病療養指導士の有資格者は、看護師、臨床検査技師、薬剤師、作業療法士と他職種で



チームブルー
ホームページ
QRコード

シリーズ 柴三郎先生の薫り② ~柴三郎先生の世紀の大発見~

病院事業管理者 片岡恵一郎

クイズです。
「この写真は柴三郎先生が何を発見した時の記念の写真でしょうか？」



「この写真は、破傷風菌の培養に成功した時の記念写真です。破傷風という病気が「存知ですか？破傷風菌は主に土の中にいる菌で、泥だらけで怪我をした時に体に入り込み、傷の奥の空気のないところで繁殖する菌です。人間の体内で毒素を産生するので、その毒で痙攣がおきたり、呼吸ができなくなったりする、死亡率30%程度の恐ろしい病気なのです。」

「この写真は、破傷風菌の培養に成功した時の記念写真です。破傷風という病気が「存知ですか？破傷風菌は主に土の中にいる菌で、泥だらけで怪我をした時に体に入り込み、傷の奥の空気のないところで繁殖する菌です。人間の体内で毒素を産生するので、その毒で痙攣がおきたり、呼吸ができなくなったりする、死亡率30%程度の恐ろしい病気なのです。」

「この毒素の存在を突き止めたのもすごいのですが、なんとさらに超すごい事に、この毒をごく少量から段階的に増やしてネズミに打っていくと、致死量の破傷風の毒を打っても破傷風の症状がでないという事を同時に突き止めていました。このネズミの身体にはきつと破傷風毒を打ち消すものができているのであろうという事で、このネズミから毒を中和するもの（抗毒素）を取り出して、それを使い破傷風の治療ができることをも証明しました。」

「この毒素の存在を突き止めたのもすごいのですが、なんとさらに超すごい事に、この毒をごく少量から段階的に増やしてネズミに打っていくと、致死量の破傷風の毒を打っても破傷風の症状がでないという事を同時に突き止めていました。このネズミの身体にはきつと破傷風毒を打ち消すものができているのであろうという事で、このネズミから毒を中和するもの（抗毒素）を取り出して、それを使い破傷風の治療ができることをも証明しました。」

「この毒素の存在を突き止めたのもすごいのですが、なんとさらに超すごい事に、この毒をごく少量から段階的に増やしてネズミに打っていくと、致死量の破傷風の毒を打っても破傷風の症状がでないという事を同時に突き止めていました。このネズミの身体にはきつと破傷風毒を打ち消すものができているのであろうという事で、このネズミから毒を中和するもの（抗毒素）を取り出して、それを使い破傷風の治療ができることをも証明しました。」



当時のトキシソイト(抗毒素) 北里柴三郎記念館所蔵

「この「破傷風菌は純粋培養できない」という当時の常識に立ち向かったのが、当時ドイツのコッホ研究所に留学していた柴三郎先生でした。「空気があるから培養できないのではなかったか？」という仮説をたてることができた人が、それまでの人類の歴史上に一人もいなかったという事は、どれだけこの発想の転換が難しかったか、という事。柴三郎先生は空気を嫌う他の菌のややこしい培養方法(自ら発明した写真の装置)を破傷風菌に応用し、破傷風菌の嫌気性純粋培養に世界で初めて成功しました。素晴らしい。」

「これらのお品書きを、ドイツ留学中に、わずか3年の間で成し遂げており、研究に携わったことのある人にとって、これは「神がかりの」なものすごい業績です。今でいうと、パソコンとPhoneとインターネットを一人で発明したぐらいすごい事なのです。」

「今回は、北里柴三郎先生が、破傷風の菌とその毒素を発見し、そして、その治療法として、血清療法という人類にとつて現在でも重要な新しい治療法を発明した人であることを覚えて下さい。当時、抗毒素の本態が「抗体」であることはまだわかっていませんでした。実は、人類で初めて「抗体」を人の身体に治療として使った人ともいえます。今風にいうと「ヤバイ」です。」

「新たなものを生み出し、世の中を変革することを、現代では「イノベーション」という言葉で表現しますが、柴三郎先生は医学史上、いや人類史上の偉大なイノベーターの一人なのです。こんな素晴らしい人物が小国郷から出たという事は、小国郷として誇りであり、千円札の肖像画以上の価値として、みんなで大声で叫んで回りたいところです。」

破傷風菌 ~テグタン~

「驚くべきことに、まだまだ続きがあるので、もう一つの感染症業界の偉業、「ペスト菌の発見」は次回にしましょう。」

老健だより ~誕生会~

2ヶ月に一度の誕生会。今回は6月17日に5月~6月生まれの利用者様の誕生会を開催しました。

本来ならば、園児による余興などで一緒に歌ったり手遊びをしたりとふれ合いの時間がありましたが、コロナ禍で出来ない状況が続いています。早く終息を願うばかりです。

今回は「ビンゴゲーム」。豪華賞品？を用意しました。職員が読み上げる番号を、耳を澄まし、配られたカードをみて大声で喜ぶ方もいれば、残念がられる方もいらっしゃいました。普段見られない表情が見られ、大いに盛り上がった誕生会となりました。

~お品書きとお祝い膳~

お誕生会のお品書き

- 助六寿司
- 枝豆入りきつぽ揚げ
- 冬瓜の蟹あんかけ
- 小松菜の生姜和え
- 枝豆豆腐
- びわのシロップ漬
- 梅だじしん漬
- 冷やし汁

ビンゴ大会 楽しんでますかあ~